

## マガン、いつ帰る？

冬鳥として多数飛来する天然記念物のマガン。県内の主な越冬飛来地の大湍村では、数千羽から1万羽とも言われている。マガンは、大湍村と宮城県伊豆沼周辺を行ったり来たりを繰り返しているが、移動の途中に大仙市内に降り立つことは滅多にありません。

3月19日、300羽が大浦沼上空を飛び交っていた。3月27日には沼周辺の田んぼの中、約100羽が見つかった。渡りの途中降り立ったものでしょう。過去の観察経験からすると長居することはありませんでした。

もしかしてと、翌日に行ってみたらまだいるではないか。夜間は安全な沼の中で過ごし、日中は田んぼで採餌している事から、ここは安全な環境と餌の確保が出来るいい場所なのでしょう。



大浦沼上空を飛び交うマガンの群れ

いつまでいてくれるのか毎日通うことにしたが、これが長い付き合いとなりました。

28日、29日も見つかった。4月3日、7日もまだいる。8日には50羽と少なくなったが、大浦沼周辺から離れようとしません。10日、11日、12日、13日と続いた。いつまでいるのだろうか。畦道には菜の花が咲き初め、夏鳥のケリもやって来た。夏鳥と冬鳥の両方が混在しています。



全員が頭をもたげ警戒中



夢中になって採餌中のマガン。落穂を食べているようだ。

そこへ新幹線こまちが横切って行った。マガンとこまちのツーショットが撮れるのはここだけでしょう。ちょっと得した気分。

桜の便りが聞かれるようになり、待ちに待った季節がやって来ました。マガンの繁殖地までは遠い道のりです。いつまでも残っていないでそろそろ飛び立ってもらいたいところです。



珍しいシジュウカラガン（右から4番目）も同一行動



群れの横を新幹線こまちが通り過ぎた。